

## 長崎県内の将来人口推計（Ⅰ）

～ 2040年のすがた ～

- ▶ 2010年国勢調査結果を基に、コーホート要因法により長崎県と21市町の2040年までの男女5歳階級別将来人口推計を行った。長崎県の総人口（中位推計結果、以下同じ）は25年に123.4万人、40年には99.8万人まで減少するとみられる。
- ▶ 年少人口（0～14歳）は2010年の19.4万人から25年に15万人割れ、40年には9.9万人にまで減少、構成比は13.6%から9.9%に低下。
- ▶ 生産年齢人口（15～64歳）は、10年の86.2万人から、団塊世代が65歳以上に達する15年に78.2万人、25年に63.7万人、40年には46.4万人に減少。構成比は10年の60.4%から46.5%と4割台に低下。また、中高年層（40歳以上）の比率が高まり、生産年齢人口が高年齢化しつつ減少傾向を辿る見通し。
- ▶ 老年人口（65歳以上）は、10年の37.1万人から15年に40万人を突破、2025年に45.1万人に達したあと減少トレンド入りし、40年には43.5万人へ。人口構成比は10年の26.0%から25年には36.6%まで上昇。また、10年に65～74歳を上回った75歳以上の人口はさらにウエイトを高め、40年には1.8倍に。
- ▶ 自然動態（出生－死亡）は2005～10年に年平均3.4千人減だったものが、今後マイナス幅が拡大し、25～30年以降は8千人台のマイナスに。一方、社会動態の減少幅は今後、6千人台で推移。
- ▶ 21市町のうち10年に比べ25年、40年のいずれも人口がプラスとなるのは時津町と大村市のみ。その他は減少し、減少率は長与町、波佐見町が10%台、佐々町、諫早市、長崎市、佐世保市が20%台、その他の13市町は30%以上。
- ▶ 年齢層別にみると、年少人口が10%超は大村市、時津町、長与町、佐々町、川棚町、波佐見町、壱岐市、佐世保市の8市町、一方、65歳以上の高齢人口は五島市、平戸市、対馬市、南島原市、島原市や小値賀町、東彼杵町、新上五島町で50%を超え、40%を下回るのは大村市、時津町、佐々町の3市町にとどまる。
- ▶ 長崎県の世帯数（一般世帯）は10年の55.7万世帯から、25年に51.6万世帯、40年には43.1万世帯へと今後減少傾向を辿る。世帯主年齢が64歳以下の世帯が大きく減少する一方、65歳以上の世帯は25年までは増加を続け、その後減少に転じるが、35年には64歳以下の世帯数を上回る。
- ▶ また、単独（単身）世帯数をみると、10年の16.4万世帯から減少傾向を辿るが、65歳以上の高齢単独世帯数は10年の6.5万世帯から30年に7.8万人まで増加、40年も7.5万世帯に上るとみられる。

## 目 次

- |  |   |
|--|---|
| <p>1. 将来人口推計の基本的な考え方</p> <p>2. 将来人口推計結果の概要</p> <p>3. 自然動態・社会動態</p> | <p>4. 市町村別の人口推計結果</p> <p>5. 世帯数の見通し</p> |
|--|---|

経済・社会のあり方を考える上で最も基本的なデータは、国・地方を問わず人口構造の見通し、すなわち将来の人口構成・出生・死亡・人口移動などがどのような推移を辿るのかということである。日本の総人口は2005年から減少過程に入っており、国立社会保障・人口問題研究所の2012年1月推計(中位推計)では2010年の1億2,806万人から30年には9%(1,144万人)減少し1億1,662万人、平成60(2048)年には1億人を割り込み9,913万人となるとされている。

一方、人口減少スピードが加速してきている長崎県内については、今後どのような推移が予測されるだろうか。そこで、当社では2010年国勢調査結果を基に、2040年まで長崎県および県内市町の将来人口推計を行った。本稿ではまず推計結果の概要を紹介することとし、次回からは、この結果を踏まえた地域経済社会への影響等をレポートする。

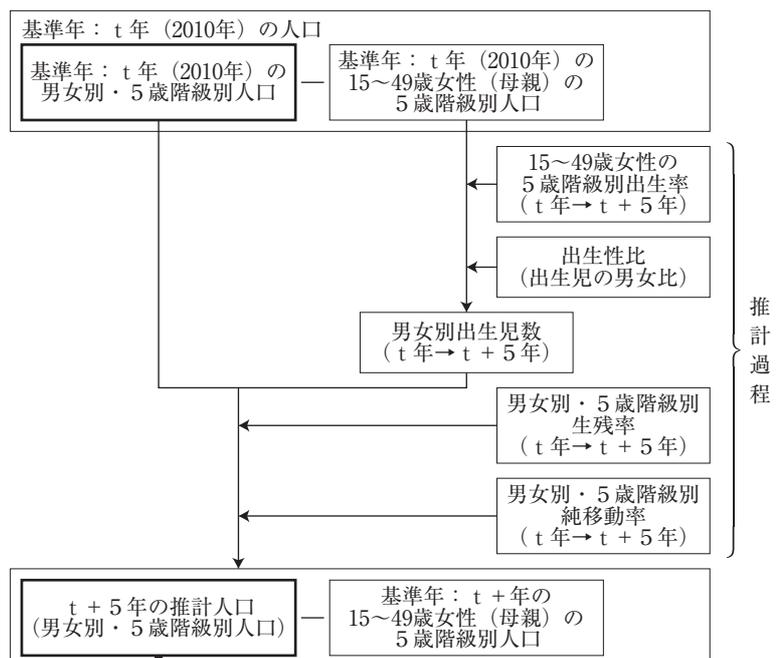
## 1. 将来人口推計の基本的な考え方

本将来人口推計は、これまでと同様にコーホート要因法を用いて実施した。この手法はコーホート(同時期出生集団、今回の推計では男女5歳階級別人口)毎の5年間の出生率、生残率、純移動率を設定して、5年後のコーホート人口を算出するという作業を繰り返し行うものである。今回の推計は長崎県全体、県内21市町について行った。

### (1) 前提となるデータ

コーホート要因法による将来人

図表1 コーホート要因法による将来推計人口のフロー



以下、同様の推計を2040年まで繰り返す。

口推計では、「基準人口」、「将来の出生率」、「将来の出生性比」、「将来の生残率」、「将来の純移動率」という5つのデータを用いる。

①基準人口

推計の出発点となる基準人口として、「国勢調査報告」（総務省）の2010年10月1日現在の男女5歳階級別人口（総人口）を用いた。ただし、年齢「不詳」の人口については、補正係数（男女別総人口／年齢不詳を除く男女別総人口）を算出し、それに基づき各コーホートに振り分けた。

②出生率

将来の出生数（各年次における15～49歳の女性が生む子供の数の合計）を推計するには将来の女子年齢別出生率が必要となる。本推計における出生率の仮定値は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口」（2012年1月推計）における全国の女子年齢別出生率の将来推計値（高位、中位、低位）に、本県および21市町と全国の出生率（過去5年の平均）の乖離率を乗じて設定した。

図表2 合計特殊出生率の仮定値

期間	全国			長崎県		
	高位	中位	低位	高位	中位	低位
05～10年	1.3237（実績）			1.5431（実績）		
10～15年	1.466	1.384	1.296	1.700	1.604	1.502
15～20年	1.578	1.360	1.153	1.831	1.576	1.334
20～25年	1.606	1.335	1.097	1.868	1.549	1.270
25～30年	1.598	1.334	1.099	1.861	1.548	1.272
30～35年	1.592	1.340	1.109	1.855	1.554	1.283
35～40年	1.591	1.344	1.116	1.854	1.559	1.291

資料：厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（2012年1月推計）」、長崎県「衛生統計年報（人口動態編）」、「推計人口」から当社で算出。

（注）合計特殊出生率は、ある年次における15～49歳までの女子の年齢別出生率を合計した数値。想定される生涯の平均出生見数に相当する。

③出生性比

出生性比（男児出生数／女児出生数×100）については、2005～2010年までの全国の実績に基づき、女子100に対して男子105.5とし、将来にわたって一定であると仮定した。

④生残率

本推計における生残率（男女5歳階級別生残率）とは、基準年次における人口が5年後に生残する確率（たとえば20～24歳の人口が5年後に25～29歳になる確率）であり、「生命表」（厚生労働省）から算出される。今回は、長崎県および21市町に算出し地域性を反映させた。具体的には「県別生命表」・「市町村別生命表」（いずれも2005年基準）を基に2005年の全国生残率との男女5歳階級別の乖離率を算出し、その乖離率を「日本の将来人口推計」（前出）の将来生残率に乗じて長崎県・21市町別に算出・設定した。

⑤純移動率

純移動率は、ある地域の転入超過数（転入数－転出数）が地域人口に占める割合を示したものの。本推計では、2005～2010年の期間について、コーホート（男女5歳階級別人口）毎に、21市町の純移動率を求め（人口増減率－生残率）、以後一定であると仮定した。

## (2) 推計に当たって

上記①～⑤のデータを使って、長崎県と21市町別の5年毎の将来人口推計を2040年まで行った。推計は男女5歳階級別とし、出生率の高位、中位、低位にしたがって3つのパターン（高位推計、中位推計、低位推計）で行った。

なお、県単位での推計値と市町毎の推計値の合計とでは幾分乖離が生じるため、本推計では長崎県全体の人口には県単位推計値を採用し、市町村毎の推計値はその合計値が県単位推計値に一致するよう一括補正した。

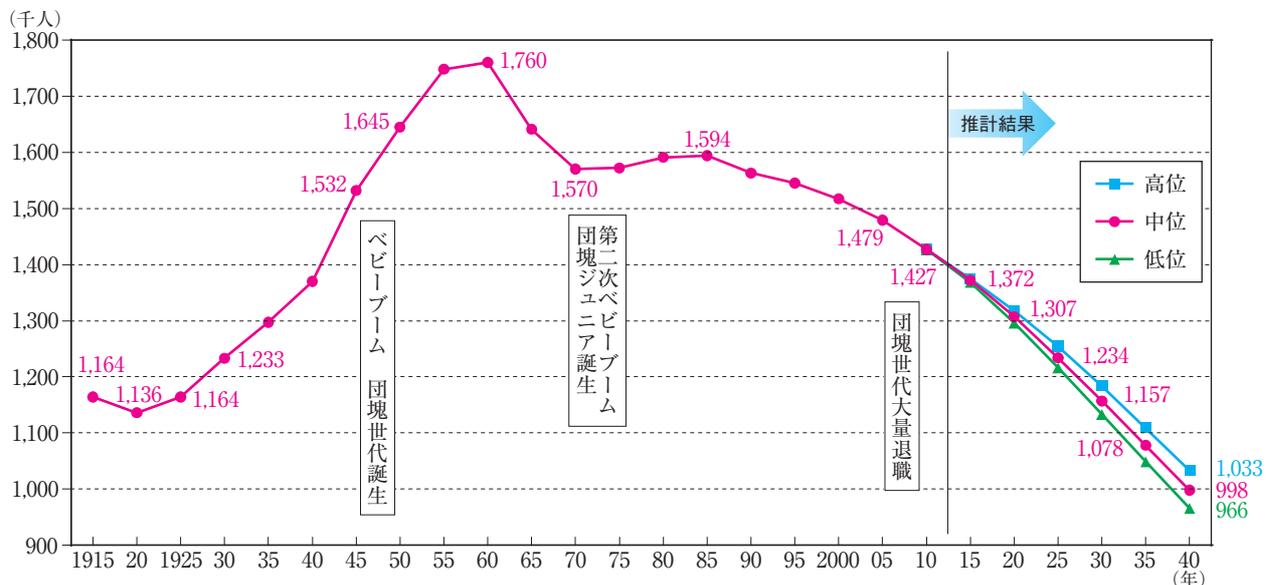
## 2. 県内将来人口の推計結果

### (1) 総人口の推移 - 30年の総人口は1925年水準に、40年には100万人割れ -

本県の人口は1960年（176.0万人）にピークを記録したあと、大都市部への人口流出による人口減少を経て、1970年代には第二次ベビーブームもあって増加に転じたが、1985年を以降は減少傾向を強めている。2010年国勢調査によると、長崎県の総人口は142.7万人とピーク比約33万人（19.0%）減少、2005年比でも約5.2万人（3.5%）の減少となっており、減少のペースは2000～2005年（3.8万人、2.5%）よりも速まっている。

それでは、今後の長崎県の人口はどのように推移していくのだろうか。まず、中位推計（標準的な出生率で推計）の結果をみると、今後、人口減少スピードはさらに加速され2020年の総人口は130.7万人と130万人割れ目前となり、2030年には115.7万人と1925年（116.4万人）水準となる。さらに2040年には100万人の大台割れ（99.8万人）が想定される。

図表3 長崎県の将来推計人口の推移



(注) 2015年から2035年の数字は中位推計値。

また、出生率の仮定値を楽観的（高め）にみた高位推計でも、30年には118.4万人、一方、最も悲観的（低め）にみた低位推計では2020年には130万人を割り込み、2030年113.3万人、40年96.6万人へと減少するとみられる。

前回2007年推計と比較すると、今回の推計では、将来の出生率の設定値が高まっていることなどからやや上振れしている。2030年時点では、07年推計の1,153千人に対し、今回推計では1,157千人と5千人上回っており、減少スピードが幾分和らいでいるが、トレンドは変わっていないといえる。

図表4 2007年推計と今回12年推計の比較

(人)

	05年	10年	15年	20年	25年	30年
12年推計	1,478,632	1,426,779	1,372,000	1,306,861	1,234,434	1,157,462
07年推計	1,478,632	1,427,053	1,367,881	1,300,623	1,228,068	1,152,693
12年-07年差	-	△274	4,119	6,238	6,366	4,769

網掛けは実績値

以下では、2040年までを展望した県内将来推計人口のすがたを中位推計結果から、年齢層別、自然動態・社会動態別、市町・都市圏別に紹介していく。

## （2）年齢層別人口の推移 - 生産年齢人口が高年齢化しつつ減少 -

まず、将来推計人口（中位推計）を年少人口、生産年齢人口、老年人口の3つの年齢層別にみていこう。

### ①年少人口

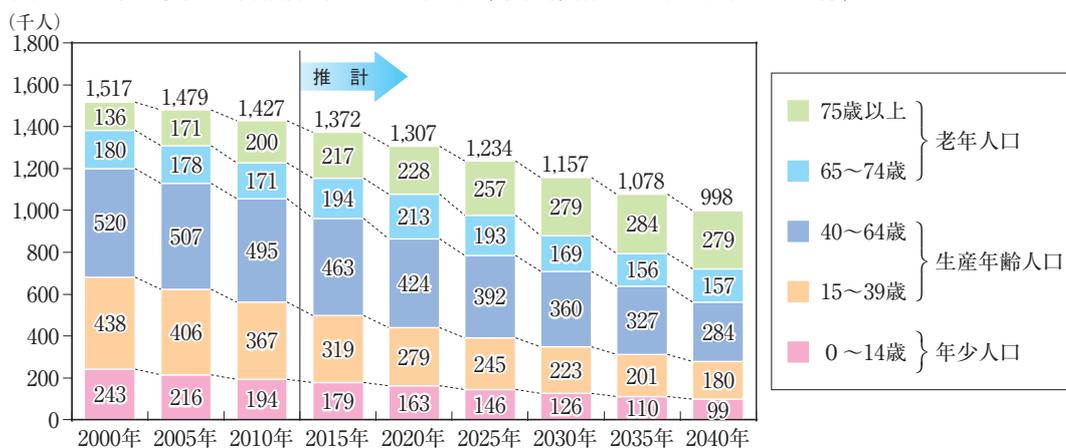
年少人口（0～14歳）はピークの1960年には63.9万人に上ったが、2010年にはその3割、19.4万人となり、20万人の大台を割り込んだ。今後も減少傾向は続き、25年には15万人を、40年には10万人を割り込む。

### ②生産年齢人口

生産年齢人口（15～64歳）は、1985年の103.8万人をピークに2010年には86.2万人まで減少。今後は団塊世代が65歳以上に達する15年には78.2万人と80万人を割り込み、30年には58.4万人、40年には50万人を割り込み46.4万人まで減少するものとみられる。

生産年齢人口を若年層（15～39歳）と中高年層（40～64歳）に分けてみると、1990年に中高年層（51.5万人）が若年層（50.2万人）を逆転して以降、その差は拡大を続けている。中高年層は1995年の52.8万人をピークに以後減少局面に入っており、2010年には50万人を、25年には40万人を、さらに40年には30万人を割り込む。一方、若年層は既に1960年から減少局面入りしており、2010年には36.7万人まで減少し、20年には30万人を大きく割り込み、40年には18.0万人まで縮小する。生産年齢人口のなかでも、20年以降は中高年層が6割超を占めるようになり、生産年齢人口が高年齢化しつつ減少していくことがわかる。

図表5 長崎県の年齢層別人口の予測（中位推計、以下の図表も同様）



### ③老年人口 2025年まで増勢続く

年少人口と生産年齢人口が減少傾向を辿る一方、老年人口（65歳以上）は一貫して増加している。1990年の22.9万人から2000年に31.6万人へと一気に増加したあと、2010年は37.1万人となっており、増加テンポは緩んだものの、今後は団塊世代が65歳を超える15年に40万人を突破する見込み。その後は25年に45.1万人まで増加したあとは減少トレンドに入り、40年には43.5万人となるとみられる。

なお、老年人口の内訳をみると、後期高齢人口（75歳以上）の増加が目立ち、2010年には前期高齢人口（65～74歳）を上回る20.0万人に達し、35年の28.4万人まで増加が続くと見込まれる。

### （3）年齢層別人口の構成比 -25年には総人口の1／3が65歳以上に-

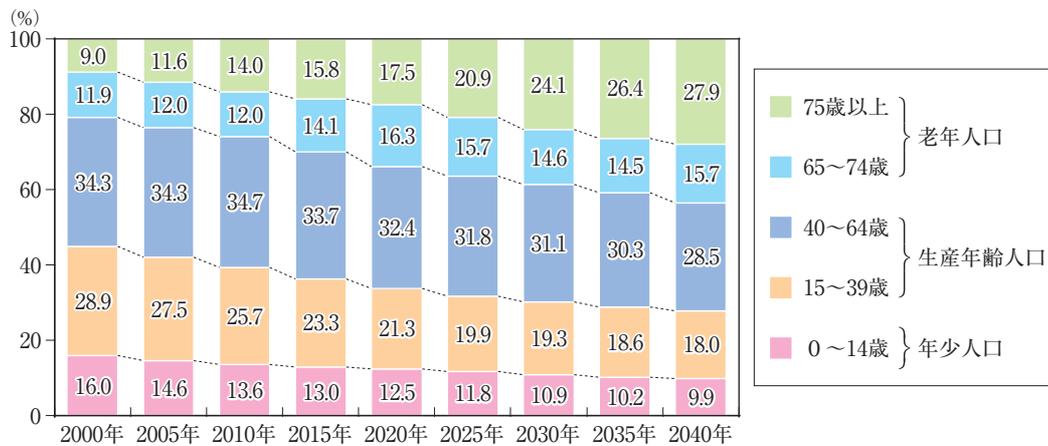
次に、これら年齢層別人口の総人口に対する割合がどのように変化するかみていこう。

まず、年少人口についてみると、1955年の37.0%をピークにその後は低下の一途を辿り、2010年には13.6%となっている。今後は低下幅が縮小するものの、30年には10.9%、40年には9.9%となり、子供は人口の1割という状況が予想される。

また、生産年齢人口については、2005年は61.8%と1965年以降60%台を維持しつつも1985年の65.2%をピークに徐々に低下してきており、15年には57.0%と6割を割り込み、30年には50.4%、40年には46.4%となる見込み。このうち、中高年層は10年の34.7%から35年（30.3%）までは30%台を維持するのに対し、若年層は05年の27.5%が25年には19.9%まで低下し、その後も低下傾向が続く。

一方、上昇傾向にある老年人口をみると、10年は26.0%と4分の1を超え、今後は15年に30.0%、25年には36.6%、40年には43.6%にまで高まるとみられる。なかでも75歳以上（後期高齢人口）は10年の14.0%から25年に20.9%、40年には27.9%と3割近くを占めることが見込まれる。

図表6 長崎県の年齢層別人口構成の予測

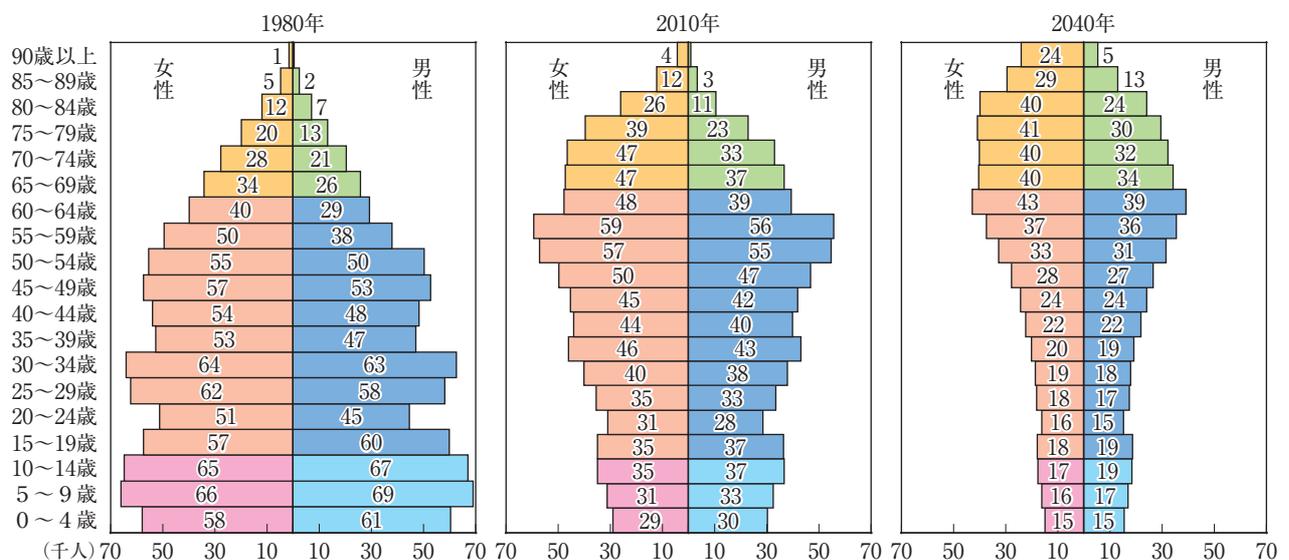


#### （4）人口ピラミッドの変化 - 釣鐘型から壺型へ -

長崎県の男女5歳階級別人口を2010年現在と30年前1980年、30年後の2040年（中位推計）についてグラフ化してみると、人口構成の変遷がよくわかる。

まず、1980年をみると、団塊世代（30～34歳）と団塊ジュニア（5～9歳）の2つの山があり、全体としては年少人口が多く山型から釣鐘型への移行過程となっていた。これが2010年になると、大きな山は団塊世代（60～64歳）とその下の55～59歳だけとなり、年齢が若くなるほど人口は少なく、すでに釣鐘型から安定感に乏しい壺型へ移行していることがわかる。さらに、2040年になると、団塊ジュニア世代が65～69歳となり山を形成し、若いほど人口が少ない完全な壺型になるものとみられる。

図表7 長崎県の人口ピラミッドの変化



図表8 長崎県の男女5歳階級別将来推計人口

(人)

総人口	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	合計
2005年	64,132	72,411	79,528	81,134	71,113	78,780	90,346	84,788	88,503	97,935	114,117	116,647	90,262	89,258	88,605	75,684	51,565	27,660	12,545	3,619	1,478,632
2010年	59,127	63,648	71,553	71,362	59,451	68,855	77,999	89,241	83,840	87,290	96,438	112,049	115,031	87,158	84,168	79,631	62,448	36,736	15,502	5,252	1,426,779
2015年	57,093	58,689	62,892	64,214	52,263	57,573	68,183	77,074	88,283	82,733	86,034	94,849	110,715	111,295	82,668	76,437	66,720	45,518	21,395	7,372	1,372,000
2020年	48,633	56,678	58,001	56,450	47,043	50,625	57,009	67,379	76,257	87,147	81,583	84,689	93,853	107,349	105,766	75,501	64,833	49,718	27,413	10,934	1,306,861
2025年	41,573	48,277	56,017	52,058	41,364	45,563	50,136	56,347	66,685	75,302	85,978	80,374	83,897	91,161	102,286	96,924	64,644	49,153	30,786	15,909	1,234,434
2030年	36,696	41,276	47,715	50,276	38,139	40,068	45,132	49,560	55,777	65,869	74,326	84,752	79,709	81,620	87,098	94,154	83,390	49,734	31,216	20,955	1,157,462
2035年	33,159	36,436	40,791	42,829	36,836	36,950	39,694	44,622	49,071	55,112	65,044	73,307	84,118	77,652	78,160	80,526	81,577	64,667	32,288	25,143	1,077,982
2040年	30,253	32,927	36,013	36,617	31,384	35,684	36,608	39,247	44,184	48,498	54,438	64,183	72,814	82,025	74,504	72,537	70,277	63,971	42,553	29,480	998,197
男性																					
2005年	32,649	37,077	40,943	40,984	34,189	38,262	43,547	40,192	42,547	47,693	56,244	56,898	41,345	40,138	38,713	30,796	17,771	7,947	2,900	609	691,444
2010年	30,275	32,504	36,693	36,515	28,482	33,434	37,965	43,281	39,925	42,012	46,841	54,880	55,774	39,367	36,857	33,076	23,009	10,660	3,466	883	665,899
2015年	29,235	30,144	32,168	32,731	25,381	27,859	33,181	37,748	43,015	39,454	41,316	45,807	53,951	53,297	36,464	31,988	25,294	14,317	4,901	1,214	639,465
2020年	24,902	29,113	29,838	28,698	22,755	24,835	27,650	32,996	37,519	42,524	38,823	40,448	45,123	51,718	49,594	31,914	24,913	16,277	6,902	1,814	608,356
2025年	21,286	24,799	28,818	26,619	19,954	22,259	24,648	27,501	32,805	37,108	41,870	38,049	39,908	43,354	48,311	43,740	25,210	16,421	8,159	2,815	573,634
2030年	18,791	21,202	24,549	25,710	18,513	19,525	22,103	24,516	27,352	32,458	36,562	41,077	37,596	38,422	40,636	42,886	34,971	16,968	8,509	3,822	536,168
2035年	16,983	18,717	20,986	21,903	17,883	18,117	19,387	21,990	24,389	27,071	31,999	35,898	40,637	36,264	36,119	36,279	34,654	23,972	9,059	4,596	496,903
2040年	15,495	16,917	18,527	18,726	15,237	17,498	17,990	19,290	21,878	24,148	26,698	31,439	35,554	39,261	34,177	32,405	29,590	24,141	13,146	5,406	457,523
女性																					
2005年	31,483	35,334	38,585	40,150	36,924	40,518	46,799	44,596	45,956	50,242	57,873	59,749	48,917	49,120	49,892	44,888	33,794	19,713	9,645	3,010	787,188
2010年	28,852	31,144	34,860	34,847	30,969	35,421	40,034	45,960	43,915	45,278	49,597	57,169	59,257	47,791	47,311	46,555	39,439	26,076	12,036	4,369	760,880
2015年	27,858	28,545	30,724	31,483	26,882	29,714	35,002	39,326	45,268	43,279	44,718	49,042	56,764	57,998	46,204	44,449	41,426	31,201	16,494	6,158	732,535
2020年	23,731	27,565	28,163	27,752	24,288	25,790	29,359	34,383	38,738	44,623	42,760	44,241	48,730	55,631	56,172	43,587	39,920	33,441	20,511	9,120	698,505
2025年	20,287	23,478	27,199	25,439	21,410	23,304	25,488	28,846	33,880	38,194	44,108	42,325	43,989	47,807	53,975	53,184	39,434	32,732	22,627	13,094	660,800
2030年	17,905	20,074	23,166	24,566	19,626	20,543	23,029	25,044	28,425	33,411	37,764	43,675	42,113	43,198	46,462	51,268	48,419	32,766	22,707	17,133	621,294
2035年	16,176	17,719	19,805	20,926	18,953	18,833	20,307	22,632	24,682	28,041	33,045	37,409	43,481	41,388	42,041	44,247	46,923	40,695	23,229	20,547	581,079
2040年	14,758	16,010	17,486	17,891	16,147	18,186	18,618	19,957	22,306	24,350	27,740	32,744	37,260	42,764	40,327	40,132	40,687	39,830	29,407	24,074	540,674

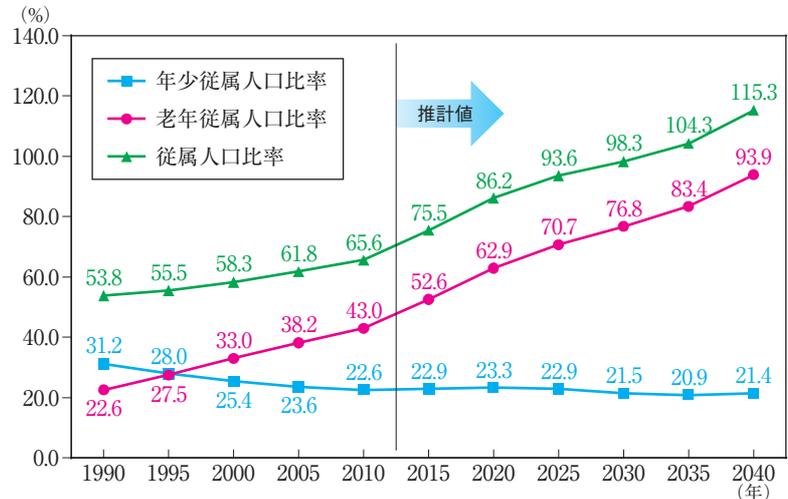
### （５）従属人口比率の変化 - 働き手の扶養負担は増加 -

従属人口比率（生産年齢人口に対する年少・老年人口の比率）は、生産年齢人口の扶養負担の程度を表す指標である。中位推計に基づく年少従属人口比率（年少人口／生産年齢人口）は、2010年の22.6%（働き手4.4人で年少者1人を扶養）から、概ね横ばいに推移し、40年でも21.4%（4.7人で1人）にとどまる。これは、年少人口、

生産年齢人口とも同様に減少するためである。一方、老年従属人口比率（老年人口／生産年齢人口）は、2010年の43.0%（働き手2.3人で高齢者1人を扶養）から25年には70.7%（1.4人で1人を扶養）へと急激に上昇、さらに40年には93.9%（ほぼ1人で1人を扶養）に達する。

この結果、年少人口と老年人口を合わせた従属人口比率は、2010年の65.6%から、35年には104.3%、40年115.3%と、働き手1人で被扶養者1人以上を扶養する状況に至るものと予測される。

図表9 従属人口比率の推移

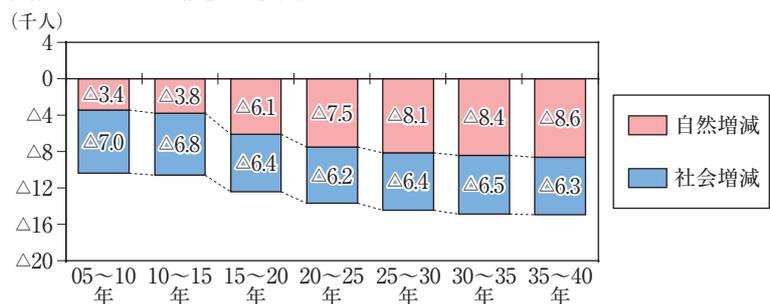


## 3. 自然動態・社会動態別増減 - 拡大する自然減 -

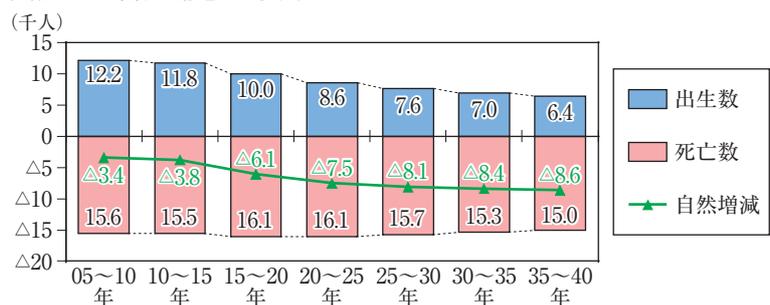
次に、人口増減の要因を自然動態（出生－死亡）と社会動態（転入－転出）に分解してみよう。

社会動態が2005～10年の年平均で7.0千人のマイナス、その後も6千人台で推移するとみられる一方、自然動態は2005～10年の年平均では3.4千人（出生数12.2千人、死亡数15.6千人）だったものが、15～20年にはマイナス幅が6.1千人に拡大、25～30年には8千人を超え、35～40年には8.6千人まで拡大する見通し。

図表10 人口動態の予測（各期間の年平均自然増減・社会増減）



図表11 自然動態の予測（各期間の年平均出生数・死亡数と自然増減）



このうち出生数は、出生率の低迷により15～20年には年間10千人を割り込み、35～40年には6.4千人まで減少する。これは、出産年齢女性人口(15～49歳)が10年の27.6万人から40年には13.7万人へと半減(50.3%)することを反映しており、出生率の大幅な上昇がなければ、出生数は大きく減少することが避けられない。

一方、死亡数は、高齢者の増加により15年～25年にかけては16千人を上回り、その後は緩やかな減少傾向ながら15千人台で高止まりの見通し。この結果、20～25年以降は、社会減を自然減が上回る状況が見込まれる。

図表12 出産年齢女性人口の予測

年	出産年齢人口 (15～49歳)		20～39歳	
	人数	伸び率	人数	伸び率
2010年	276,424	△9.4	152,384	△9.7
2015年	250,954	△9.2	130,924	△14.1
2020年	224,933	△10.4	113,820	△13.1
2025年	196,561	△12.6	99,048	△13.0
2030年	174,644	△11.2	88,242	△10.9
2035年	154,374	△11.6	80,725	△8.5
2040年	137,455	△11.0	72,908	△9.7
40年/10年		△50.3		△52.2

## 4. 市町別の人口推計結果

### (1) 23市町の見通し - 増加は2市町のみ -

次に、今回の人口推計結果(中位推計)を市町別で見ると、2010年の人口を40年にも維持するのは時津町と大村市という交通アクセスがよく企業誘致、雇用面でも優位性のある2市町で、その他の19市町は大幅な減少が予想される。

減少率は長与町、波佐見町が10%台、佐々町、諫早市、長崎市、佐世保市が20%台、その他の13市町は30%以上の減少率が予想される。

### (2) 21市町の人口規模 - 高まる県央のウエイト -

人口規模を市町で見ると、2010年の順位1～4位までは40年も変わらないが、15年では長与町が5位に、40年には時津町が6位に上昇する。40年までを展望すると、南島原市、島原市、五島市、平戸市、対馬市などが順位を下げ、長与町、時津町、壱岐市、松浦市、佐々町などが上げる見込み。

また、構成比をみると、2010年と2040年ではトップの長崎市が31.1%から32.3%、諫早市が9.9%から10.4%に、大村市が6.3%から9.2%に上昇するなど、県央地区のウエイトが高まっていくことを示している。

図表13 市町別の人口増減率 (%)

2010年～25年		2010年～40年	
時津町	4.4	時津町	1.7
大村市	3.7	大村市	1.1
長与町	△5.1	長与町	△15.8
波佐見町	△5.6	波佐見町	△17.8
佐々町	△7.1	佐々町	△20.1
諫早市	△10.6	諫早市	△26.4
長崎市	△11.4	長崎市	△27.3
佐世保市	△13.2	佐世保市	△29.9
<b>長崎県</b>	<b>△13.5</b>	<b>長崎県</b>	<b>△30.0</b>
川棚町	△13.9	川棚町	△31.7
雲仙市	△18.3	雲仙市	△38.3
島原市	△18.9	島原市	△39.3
松浦市	△21.7	松浦市	△43.6
壱岐市	△21.9	壱岐市	△43.7
南島原市	△22.2	南島原市	△44.6
東彼杵町	△23.4	東彼杵町	△45.5
西海市	△24.1	西海市	△46.5
平戸市	△27.1	平戸市	△52.2
五島市	△27.5	五島市	△52.7
小値賀町	△31.6	対馬市	△59.7
対馬市	△32.9	小値賀町	△60.7
新上五島町	△34.2	新上五島町	△61.2

図表14 長崎県の市町別の将来推計人口と前期比伸び率

(人、%)

	長崎県	長崎市	佐世保市	島原市	諫早市	大村市	平戸市	松浦市	対馬市	壱岐市	五島市	西海市	雲仙市	南島原市	長与町	時津町	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町
2005年	1,478,632	455,206	269,574	50,045	144,034	88,040	38,389	26,993	38,481	31,414	44,765	33,680	49,998	54,045	42,655	29,127	9,657	15,158	15,367	3,268	13,697	25,039
2010年	1,426,779	443,766	261,101	47,455	140,752	90,517	34,905	25,145	34,407	29,377	40,622	31,176	47,245	50,363	42,535	30,110	8,903	14,651	15,227	2,849	13,599	22,074
2015年	1,372,000	430,417	251,565	44,715	136,922	92,520	31,709	23,372	30,626	27,400	36,892	28,709	44,550	46,835	42,120	30,872	8,215	14,088	15,077	2,552	13,421	19,423
2020年	1,306,861	413,231	239,789	41,683	131,864	93,615	28,549	21,551	26,777	25,211	33,166	26,186	41,663	43,045	41,351	31,271	7,520	13,389	14,799	2,257	13,078	16,866
2025年	1,234,434	393,010	226,540	38,497	125,791	93,885	25,433	19,677	23,090	22,946	29,437	23,665	38,617	39,173	40,354	31,420	6,823	12,610	14,371	1,948	12,628	14,519
2030年	1,157,462	370,729	212,400	35,232	118,938	93,555	22,346	17,774	19,688	20,707	25,814	21,209	35,449	35,293	39,151	31,344	6,153	11,752	13,820	1,635	12,119	12,354
2035年	1,077,982	347,075	197,798	31,975	111,430	92,731	19,399	15,920	16,613	18,539	22,381	18,862	32,261	31,488	37,633	31,091	5,489	10,872	13,182	1,361	11,527	10,355
2040年	998,197	322,616	183,139	28,815	103,530	91,485	16,698	14,170	13,882	16,543	19,216	16,673	29,172	27,880	35,816	30,625	4,855	10,009	12,512	1,121	10,868	8,572
前期比伸び率																						
2010年	-3.5	-2.5	-3.1	-5.2	-2.3	2.8	-9.1	-6.8	-10.6	-6.5	-9.3	-7.4	-5.5	-6.8	-0.3	3.4	-7.8	-3.3	-0.9	-12.8	-0.7	-11.8
2015年	-3.8	-3.0	-3.7	-5.8	-2.7	2.2	-9.2	-7.1	-11.0	-6.7	-9.2	-7.9	-5.7	-7.0	-1.0	2.5	-7.7	-3.8	-1.0	-10.4	-1.3	-12.0
2020年	-4.7	-4.0	-4.7	-6.8	-3.7	1.2	-10.0	-7.8	-12.6	-8.0	-10.1	-8.8	-6.5	-8.1	-1.8	1.3	-8.5	-5.0	-1.8	-11.6	-2.6	-13.2
2025年	-5.5	-4.9	-5.5	-7.6	-4.6	0.3	-10.9	-8.7	-13.8	-9.0	-11.2	-9.6	-7.3	-9.0	-2.4	0.5	-9.3	-5.8	-2.9	-13.7	-3.4	-13.9
2030年	-6.2	-5.7	-6.2	-8.5	-5.4	-0.4	-12.1	-9.7	-14.7	-9.8	-12.3	-10.4	-8.2	-9.9	-3.0	-0.2	-9.8	-6.8	-3.8	-16.1	-4.0	-14.9
2035年	-6.9	-6.4	-6.9	-9.2	-6.3	-0.9	-13.2	-10.4	-15.6	-10.5	-13.3	-11.1	-9.0	-10.8	-3.9	-0.8	-10.8	-7.5	-4.6	-16.8	-4.9	-16.2
2040年	-7.4	-7.0	-7.4	-9.9	-7.1	-1.3	-13.9	-11.0	-16.4	-10.8	-14.1	-11.6	-9.6	-11.5	-4.8	-1.5	-11.6	-7.9	-5.1	-17.6	-5.7	-17.2

### （3）自然動態・社会動態 - 増加は時津、大村 -

自然動態・社会動態をみると、自然増となるのは、2010～15年には時津町、大村市、長与町、佐々町の4市町あり、その後、時津町は25～30年まで続く。また、社会増は10～15年には大村市、時津町、波佐見町の3市町あり、時津

図表15 自然増、社会増の市町

期間	自然増			社会増		
	大村市	長与町	佐々町	大村市	時津町	波佐見町
10～15年						
15～20年						
20～25年						
25～30年						
30～35年						
35～40年						

町は30～35年、大村市は35～40年まで続く。また、自然動態・社会動態ともに増加となる市町は、15年までは時津町と大村市、15～20年は時津町のみとみられる。

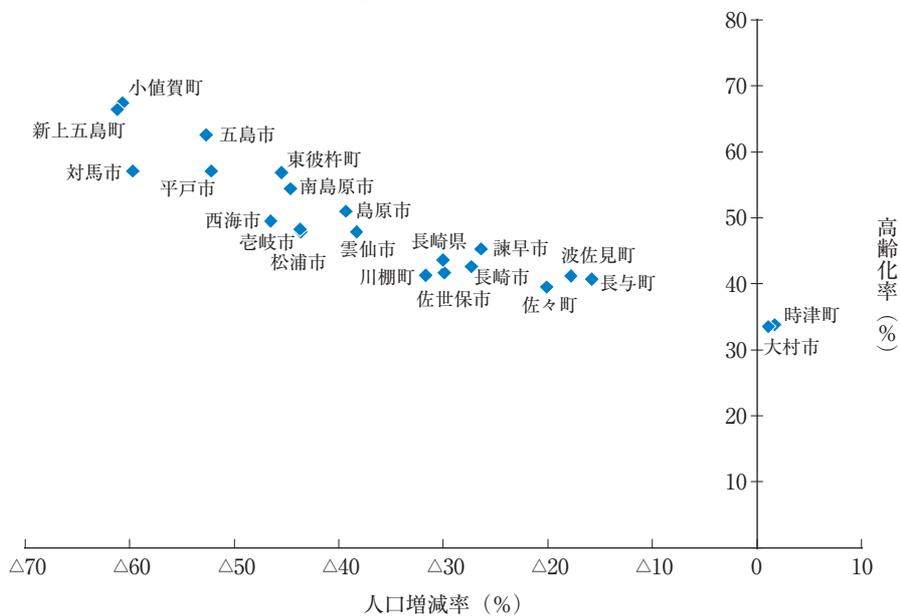
#### (4) 年齢構成 ～少子・高齢化の進展～

市町別に年齢構成をみると、2040年に生産年齢人口が50%を超えているのは時津町と大村市のみであり、年少人口が10%を超えているのは大村市、時津町のほか、長与町、佐々町、川棚町、波佐見町、壱岐市、佐世保市の8市町である。

一方、65歳以上の高齢人口は五島市、平戸市、対馬市、南島原市、島原市や小値賀町、東彼杵町、新上五島町で50%を超え、40%を下回るのは大村市、時津町、佐々町の3市町にとどまる。

また、人口の増減率と高齢化率の相関をみると、人口減少率の上昇と高齢化率の上昇とがリンクしている。

図表16 2010～40年の人口増減率と2040年の高齢化率



図表17 2025年、2040年の年齢層別人口と構成比

(人、%)

	総人口	年齢層別人口							構成比						
		～14歳	15～64歳	15～39歳	40～64歳	65歳以上	65～74歳	75歳以上	～14歳	15～64歳	15～39歳	40～64歳	65歳以上	65～74歳	75歳以上
長崎県	2010年 1,426,779 2025年 1,234,434 2040年 998,197	194,328 145,867 99,193	861,556 637,704 463,657	366,908 245,468 179,540	494,648 392,236 284,117	370,895 450,863 435,347	171,326 193,447 156,529	199,569 257,416 278,818	13.6 11.8 9.9	60.4 51.7 46.4	25.7 19.9 18.0	34.7 31.8 28.5	26.0 36.5 43.6	12.0 15.7 15.7	14.0 20.9 27.9
長崎市	2010年 443,766 2025年 393,010 2040年 322,616	55,677 42,947 29,482	276,983 210,833 155,779	120,779 83,568 61,289	156,204 127,265 94,490	111,106 139,230 137,355	52,810 59,836 50,763	58,296 79,394 86,592	12.5 10.9 9.1	62.4 53.6 48.3	27.2 21.3 19.0	35.2 32.4 29.3	25.0 35.4 42.6	11.9 15.2 15.7	13.1 20.2 26.8
佐世保市	2010年 261,101 2025年 226,540 2040年 183,139	35,834 27,379 19,063	158,007 119,151 87,753	70,006 47,007 34,762	88,001 72,144 52,991	67,260 80,010 76,323	31,281 33,415 28,844	35,979 46,595 47,479	13.7 12.1 10.4	60.5 52.6 47.9	26.8 20.7 19.0	33.7 31.8 28.9	25.8 35.3 41.7	12.0 14.8 15.7	13.8 20.6 25.9
島原市	2010年 47,455 2025年 38,497 2040年 28,815	6,372 4,334 2,593	27,179 18,238 11,530	10,553 5,969 3,840	16,626 12,269 7,690	13,904 15,925 14,692	6,108 6,646 4,939	7,796 9,279 9,753	13.4 11.3 9.0	57.3 47.4 40.0	22.2 15.5 13.3	35.0 31.9 26.7	29.3 41.4 51.0	12.9 17.3 17.1	16.4 24.1 33.8
諫早市	2010年 140,752 2025年 125,791 2040年 103,530	20,230 15,248 10,100	87,573 65,636 46,512	38,393 24,998 17,925	49,180 40,638 28,587	32,949 44,907 46,918	15,730 19,452 16,638	17,219 25,455 30,280	14.4 12.1 9.8	62.2 52.2 44.9	27.3 19.9 17.3	34.9 32.3 27.6	23.4 35.7 45.3	11.2 15.5 16.1	12.2 20.2 29.2
大村市	2010年 90,517 2025年 93,885 2040年 91,485	15,303 14,029 12,204	57,050 53,764 48,623	26,893 23,239 20,901	30,157 30,525 27,722	18,164 26,092 30,658	9,086 11,878 12,592	9,078 14,214 18,066	16.9 14.9 13.3	63.0 57.3 53.1	29.7 24.8 22.8	33.3 33.5 30.3	20.1 27.8 33.5	10.0 12.7 13.8	10.0 15.1 19.7
平戸市	2010年 34,905 2025年 26,433 2040年 16,698	4,476 2,780 1,347	18,850 10,717 5,816	6,635 3,295 1,747	12,215 7,422 4,069	11,579 11,936 9,535	5,028 4,997 2,983	6,551 6,939 6,552	12.8 10.9 8.1	54.0 42.1 34.8	19.0 13.0 10.5	35.0 29.2 24.4	33.2 46.9 57.1	14.4 19.6 17.9	18.8 27.3 39.2
松浦市	2010年 25,145 2025年 19,677 2040年 14,170	3,369 2,417 1,400	14,237 9,075 5,984	5,595 3,276 2,110	8,642 5,799 3,874	7,539 8,185 6,786	3,172 3,614 2,193	4,367 4,571 4,593	13.4 12.3 9.9	56.6 46.1 42.2	22.3 16.6 14.9	34.4 29.5 27.3	30.0 41.6 47.9	12.6 18.4 15.5	17.4 23.2 32.4
対馬市	2010年 34,407 2025年 23,090 2040年 13,882	4,837 2,555 1,116	19,435 18,736 12,493	7,068 2,883 1,495	12,367 7,034 3,349	10,135 10,618 7,922	4,653 4,683 2,473	5,482 5,935 5,449	14.1 11.1 8.0	56.5 42.9 34.9	20.5 12.5 10.8	35.9 30.5 24.1	29.5 46.0 57.1	13.5 20.3 17.8	15.9 25.7 39.3
壱岐市	2010年 29,377 2025年 22,946 2040年 16,543	4,178 2,982 1,729	15,857 10,406 6,820	6,027 3,393 2,230	9,830 7,013 4,590	9,342 9,558 7,994	3,862 3,872 2,653	5,480 5,686 5,341	14.2 13.0 10.5	54.0 45.3 41.2	20.5 14.8 13.5	33.5 30.6 27.7	31.8 41.7 48.3	13.1 16.9 16.0	18.7 24.8 32.3
五島市	2010年 40,622 2025年 29,437 2040年 19,216	4,810 2,743 1,130	22,258 12,165 6,063	7,464 3,245 1,597	14,794 8,920 4,466	13,554 14,529 12,023	5,685 6,295 3,568	7,869 8,234 8,455	11.8 9.3 5.9	54.8 41.3 31.6	18.4 11.0 8.3	36.4 30.3 23.2	33.4 49.4 62.6	14.0 21.4 18.6	19.4 28.0 44.0
西海市	2010年 31,176 2025年 23,665 2040年 16,673	3,710 2,268 1,220	17,501 11,177 7,201	6,889 4,265 2,340	10,612 6,912 4,861	9,965 10,220 8,252	4,149 4,195 2,508	5,816 6,025 5,744	11.9 9.6 7.3	56.1 47.2 43.2	22.1 18.0 14.0	34.0 34.0 29.2	32.0 43.2 49.5	13.3 17.7 15.0	18.7 25.5 34.5
雲仙市	2010年 47,245 2025年 38,617 2040年 29,172	6,314 4,651 2,692	27,309 18,736 12,493	10,758 6,501 4,209	16,551 12,235 8,284	13,622 15,230 13,987	5,685 6,819 4,577	7,937 8,411 9,410	13.4 12.0 9.2	57.8 48.5 42.8	22.8 16.8 14.4	35.0 31.7 28.4	28.8 39.4 47.9	12.0 17.7 15.7	16.8 21.8 32.3
南島原市	2010年 50,363 2025年 39,173 2040年 27,880	6,361 4,232 2,357	27,740 17,178 10,345	10,145 5,420 3,290	17,595 11,758 7,055	16,262 17,763 15,178	6,942 7,512 4,682	9,320 10,251 10,496	12.6 10.8 8.5	55.1 43.9 37.1	20.1 13.8 11.8	34.9 30.0 25.3	32.3 45.3 54.4	13.8 19.2 16.8	18.5 26.2 37.6
長与町	2010年 42,535 2025年 40,354 2040年 35,816	7,113 5,389 4,119	27,293 22,436 17,129	12,545 9,697 7,245	14,748 12,739 9,884	8,129 12,529 14,568	4,224 5,504 5,274	3,905 7,025 9,294	16.7 13.4 11.5	64.2 55.6 47.8	29.5 24.0 20.2	34.7 31.7 27.6	19.1 31.0 40.7	9.9 13.6 14.7	9.2 17.4 25.9
時津町	2010年 30,110 2025年 31,420 2040年 30,625	5,156 4,522 4,079	19,416 18,247 16,185	9,601 8,058 7,213	9,815 10,189 8,972	5,538 8,651 10,361	3,027 4,953 4,297	2,511 4,953 6,064	17.1 14.4 13.3	64.5 58.1 52.8	31.9 25.6 23.6	32.6 32.4 29.3	18.4 27.5 33.8	10.1 11.8 14.0	8.3 15.8 19.8
東彼杵町	2010年 8,903 2025年 6,823 2040年 4,855	1,027 618 317	5,159 3,053 1,775	1,985 1,044 556	3,174 2,009 1,219	2,717 3,152 2,763	1,144 1,381 822	1,573 1,771 1,941	11.5 9.1 6.5	57.9 44.7 36.6	22.3 15.3 11.5	35.7 29.4 25.1	30.5 46.2 56.9	12.8 20.2 16.9	17.7 26.0 40.0
川棚町	2010年 14,651 2025年 12,610 2040年 10,009	2,189 1,659 1,082	8,778 6,404 4,793	3,789 2,621 1,951	4,989 3,783 2,842	3,684 4,547 4,134	1,810 1,902 1,380	1,874 2,645 2,754	14.9 13.2 10.8	59.9 50.8 47.9	25.9 20.8 19.5	34.1 30.0 28.4	25.1 36.1 41.3	12.4 15.1 13.8	12.8 21.0 27.5
波佐見町	2010年 15,227 2025年 14,371 2040年 12,512	2,146 1,846 1,337	9,193 7,422 6,022	3,871 2,877 2,158	5,322 4,545 3,864	3,888 5,103 5,153	1,796 2,205 1,811	2,092 2,898 3,342	14.1 12.8 10.7	60.4 51.6 48.1	25.4 20.0 17.2	35.0 31.6 30.9	25.5 35.5 41.2	11.8 15.3 14.5	13.7 20.2 26.7
小値賀町	2010年 2,849 2025年 1,948 2040年 1,121	232 206 92	1,380 551 274	373 147 68	1,007 404 206	1,237 1,191 755	440 492 151	797 699 604	8.1 10.6 8.2	48.4 28.3 24.4	13.1 7.5 6.1	35.3 20.7 18.4	43.4 61.1 67.4	15.4 25.3 13.5	28.0 35.9 53.9
佐々町	2010年 13,599 2025年 12,628 2040年 10,868	2,251 1,697 1,202	8,409 6,762 5,370	3,763 2,696 2,034	4,646 4,066 3,336	2,939 4,169 4,296	1,383 1,858 1,612	1,556 2,311 2,684	16.6 13.4 11.1	61.8 53.5 49.4	27.7 21.3 18.7	34.2 32.2 30.7	21.6 33.0 39.5	10.2 14.7 14.8	11.4 18.3 24.7
新上五島町	2010年 22,074 2025年 14,519 2040年 8,572	2,743 1,365 532	11,949 5,836 2,346	3,776 1,269 580	8,173 4,567 1,766	7,382 7,318 5,694	3,311 3,193 1,769	4,071 4,125 3,925	12.4 9.4 6.2	54.1 40.2 27.4	17.1 8.7 6.8	37.0 31.5 20.6	33.4 50.4 66.4	15.0 22.0 20.6	18.4 28.4 45.8

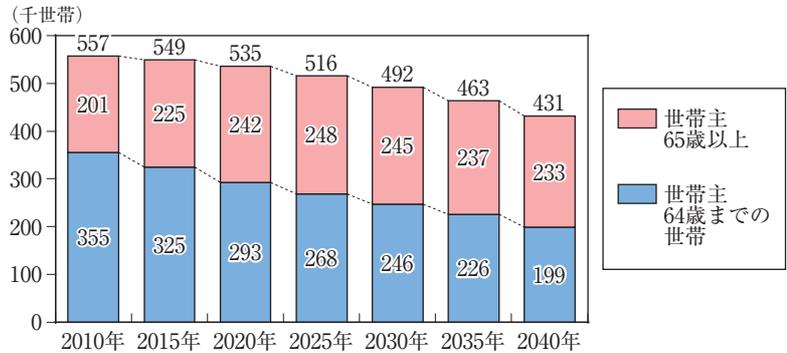
## 5. 世帯数の見通し ～高齢世帯、高齢単独世帯のウエイト拡大～

長崎県の世帯数（一般世帯）を2010年の男女年齢層別の世帯主率が今後も一定と仮定して推計すると、2010年の55.7万世帯から15年には54.9万世帯、25年には51.6万世帯、40年には43.1万世帯へと今後減少傾向を辿るとみられる。

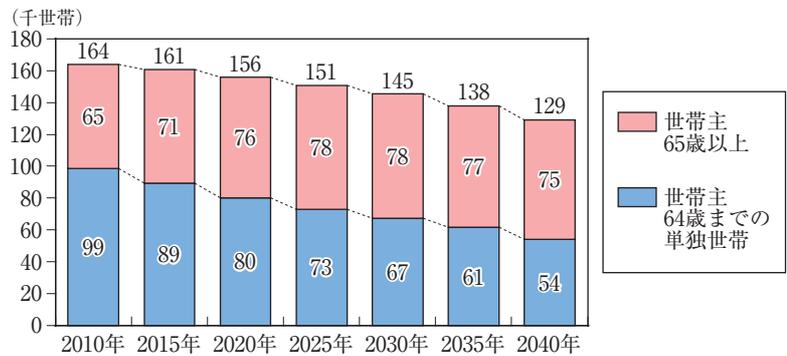
もっとも、これは、世帯主年齢が64歳以下の世帯が大きく減少していくことを反映しており、65歳以上の世帯は2025年までは増加を続け、その後減少に転じるが、35年には64歳以下の世帯数を上回ることになる。

また、世帯数のうち、単独（一人暮らし）世帯数をみると、10年の16.4万世帯から減少傾向を辿るが、65歳以上の高齢単独世帯数は10年の6.5万世帯から30年には7.8万人まで増加し、40年でも7.5万世帯に上るとみられ、今後の大きな課題となる。

図表18 長崎県の一般世帯数の見通し



図表19 長崎県の単独の一般世帯数の見通し



(中村 政博)